

今按に、此川いまは變遷して、いにしへとは流もことなる様にいひ、古隅田川といへる所もあれど、おもふに、此川古今流をことにせしにはあらざれど、いにしへはこの外川のはゞも廣く、いく瀨にも分れて流れしにや、さればふるくより隅田の河原になどいへる和歌も見えて、多く河原もありしと見ゆ、古隅田川と流をつらねしといはんには、その間多く隔りぬれば、流はことにして、その名は同じく隅田川と唱へしを、後の世には更にその名所もたがへる様におもへるなるべし、或書に云、中川と綾瀨川によこたはりて、古隅田川といふあり、今はうづまりて川はゞ僅に一間餘あり、むかしは中川と川またになりて、荒川へ流れ合て海に入しものなり、土人の云ひ傳るは古隅田川の所にそひし蒲原村は、いにしへの驛にて、今も宿と云地名のこれり、今隅田川と稱せる地は、二百四五十年前は海にして、川のあるべきやうなし、玄かれば土人のいふ、古隅田川實跡なるべしと云々、此説甚非なるべし、土人の古隅田川といひ傳ふるは、却てあらぬ所を誤りつたへしと見ゆ、回國雜記、北國紀行、梅花無盡藏等の書は、皆三四五十年前のことなり、是等に云とて、ころにてもおもひしるべし、下載ぬ、又江戸の古圖にもよくかなへり、土人の説を信じて古書を搜らざれば、世の人をまどはすことすくなからじ、されど上古のことは、必らずしも今より玄みて説を付がたし、利根川なども、今は當國にもまれなる大河にて、古へより同じ流なるべしとおもふに、又古利根川といへる處あれば、是もむかしとはたがへるにや、隅田川は往古より名高き所の名所なり、他の國にも大和、伊勢、紀伊、駿河等にも同じ名の河あれど、そのうちにも當國をもて第一とせり、

〔松屋棟梁集〕隅田河埋木文臺記

むさしの國と下總のくにとの中にある河をすみだ河といふ、古今和歌集、羈旅部伊勢、伊勢物語語今
はむかし今昔物語書本廿五卷の物語に見ゆ、八雲御抄、五の卷河原部、夫木抄、雜六部松葉名所集、十五卷歌